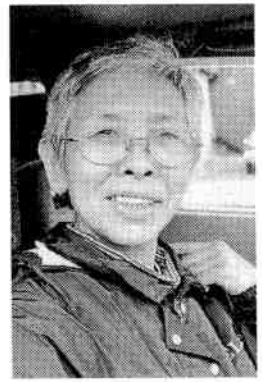


新潟県中越地震の発生から十三日で三週間。発生以降、車中生活を続けながら、日記をつけている川口町の無職、松崎千鶴さん(六五)の「写真」は余震の怖さや二次災害への不安を切々とつづっている。(渡部一実)



### 発生から三週間 松崎さんの日記

■五日(金曜日)

上越線の線路を挟んで山側には、(松崎さんの自宅をはじめ)二十軒くらいの家がある。家の損壊がどうこうよりも、建っている場所(地盤)が動いている。あの地盤の上ではみんな同じ条件。強制退去しかない。行政はどう見ているのだから。

■七日(日曜日)

さわやかな朝。この暖かさ、穏やかさがかえって不安。不気味。次は何を起してくれるの。まだ何かあるの。支給されるごはんをいただいて、あと何をするでなし。考えてみれば、何も生産性のない生活の連続。申し訳ない。

■六日(土曜日)

ポランティアの方々、種々の調査の方々、たくさんの方が声をかけてくださる。それだけで心が休まる。一人で考え込んでいても、だんだん気がめ

## 新潟県中越地震

### 余震の怖さ、2次災害への不安...

# 紅葉めでる余裕ない

■八日(月曜日) 十一時十五分。グラツ。あつ、きた。震度5弱。かなり慣れてきてはいるが、やっぱり怖い。映画やテレビドラマの話と違って、このことが、本当に起きている。

「地震の時は大きな物の下に入って」とか、そういうことで身を守る保証はない。物が落ちたり倒れたりするところに長くとどまったら、脱出できなくなる。マニュアル通りにはいかない。結局、最後は各自の判断、決断が重要になってくる。

■九日(火曜日) 六百人態勢で下水道、ガスなどの復旧を始めたとか。いちばん困るのが下水道。みんなトイレが大変。女性や若い人は困っているだろう。

■十日(水曜日) 山々の紅葉が進む。知らない間にずいぶんきれいになっていく。紅葉をめでる気持ちの余裕がないのが悲しい。みんな差し迫っての住

居問題に頭を悩ませてい。考えても考えても、解決策は見えてこない。そこそこで倒壊家屋の取り壊し、撤去の音が聞こえてくる。なんとなく落ち着かない。

■十一日(木曜日) お年寄りには秋の収穫を急ぎだしている。「かぶ菜(野沢菜)を雪の下にしてしまえば苦くなる。早く漬ければ」。長く寒い冬に備えての昔からの町民の心はせきたたられ、せつぱつまっている。

## 被災に負けず都大路へ

中越高校 男子駅伝 「目標高く入賞狙う」



被災者のためにも都大路を疾走する。新潟県中越地震で被災した長岡市の中越高校陸上部の男子チームが十二日、新発田市で開かれた県高校駅伝で優勝。十二月に京都府の都大路で競われる全国高校駅伝の切符を手にした。今回で県大会七連覇の強豪チームだが、地震で選手や監督のほとんどが十分な練習ができていない中で快挙となった。同校陸上部の男子長距離部部長岡野勝は、「被災者の全国大会の出場を決めた中越高校の男子駅伝チーム。父母らも集まり、祝勝会を開いた」12日夜、新潟県長岡市

10月28日完成 エスケーでお山に登る七五三 日枝神社 日枝あかさか 赤坂夏野・国会・福池山王 03-3581-2471

離陣は十九人。自宅が半壊して車や避難所で暮らした主将の甲野智広さん(二七)長岡市滝谷町を はじめ、ほぼ全員が被災。 車中泊を続けた牛腸正監督(五五)見附市から指導陣も被災した。 練習が再開されたのは震災から五日後の十月二十八日。メンバーは半分以上そろわなかった。

全員で練習できたのは地震から一週間後で、学校の周りの練習コースの周辺は、道路の補修や避難所が設けられるなど、被災のつめあとが残っていた。 地震発生日は、県大会の最終調整に入ったところだった。練習が中断された精神的打撃も大きかった。 この日は、二時間三十分十八秒で見事優勝。二位の安塚高校に一分余の差をつけ、圧勝した。 甲野さんは、二区を疾走。試合後、「被災者の皆さんにがんばった姿を見せられたのがうれし。全国大会は目標を高く、入賞を狙う」と話した。